

☆☆矢野目小学校教育目標☆☆互いを大切に、笑顔で協働する子ども

令和6年度矢野目小学校 学校だより

# みんなの広場 2

笑顔があふれ、明日もまた来たくなる学校

2024.9.9 発行 No.62 文責 目黒 満

☆☆自ら学び、深く考えて行動する子ども☆☆心と体を鍛え、命を大切にする子ども

残暑がまだ続いています。今日の午後も、一時的ではありましたが雷が聞こえました。週末のニュースでも雷事故が報道されていました。下校時等に、万が一雷に遭ってしまった時どうすればいいかについて、お子さんと確認下さい。個々の通学路沿いに丈夫な建物等があれば、雷が通り過ぎるまで避難する等の対応をお話し下さい。



家庭と学校ががっちり手を繋ぐ2年目に

## PTAと地域一体の奉仕作業、ありがとうございました

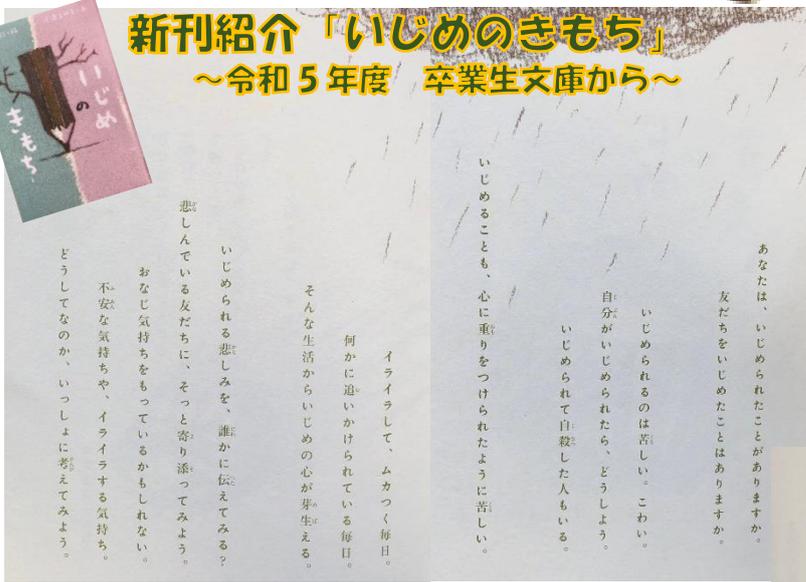
昨日 8 日(日)朝 8 時から、今年度二回目となる PTA 奉仕作業が行われました。9 月に入り、日が短く 育館利用の方には体育館の清掃作業をお願いしました。利用団体の皆さんも快く応じていただき、大勢の



なるにつれて朝夕の気温も少しずつ過ごしやすくなってきたところですが、当日は日差しもあり、残暑の朝となりました。そんな暑さの中でしたが、大勢の保護者と子どもたちに集まっていただき、小一時間ほど、校庭の除草に取り組んでいただきました。今回は、夜間や休日に体育館・校庭を利用してスポーツを楽しんでいる学校体育施設利用団体の皆さんにもお声がけし、校庭利用の方には校庭の除草を、体

方々が来校し、清掃や除草作業に取り組んでいただきました。また、地区の体育協会の皆さんにもおいていただき、一緒に環境整備を進めていただきました。お陰様で、除草も進み、また、体育館も隅々まできれいになりました。PTA の会員の皆様、体育施設利用団体の皆様、地区体育協会の皆様、本当にありがとうございました。

## 新刊紹介「いじめのきもち」 ～令和5年度 卒業生文庫から～

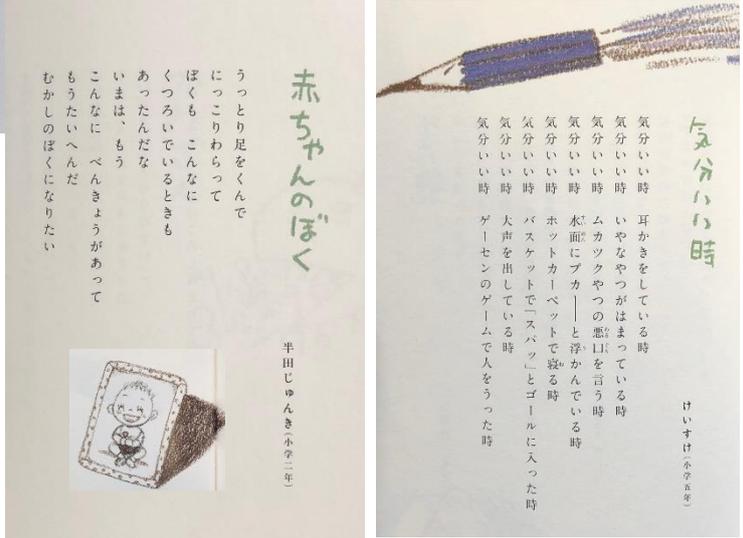


を編集したものです。～(略)～ 私の友人のある先生は、『学校はハッピーになるところだ』と言って、ウソのない人間関係をつくり、何より命を大切にする努力をしていました。～(略)～ この本が、みんなで『いじめはやめよう』という声を大きくし、ハッピーな教室をつくり出す励ましになったらとてもうれしく思います。」

左は本の最初のページです。以下のページでは

No.58で紹介した昨年度の6年生からの寄贈図書から、卒業生が「ぜひ、後輩のみんなに読んでほしい」と選定してくれた中の一冊です。タイトルは「いじめのきもち」。

本のあとがきには、著者の村山志郎さんからこんなメッセージが書かれています。「日本の学校や社会では皆さんが生まれるずっと前からいじめが大きな問題になってきました。そしていじめはますますひろがっています。～(略)～この小さな本は、小学生と中学生がいじめを綴った作品



この本に載っている小学生・中学生の作品や挿絵をいくつか紹介します。

お子さんと一緒に、ゆっくりじっくり、親子で読んでみてほしいと思います。



「こういう子 すきだな」とおかあさんが、いいました。「なんで」  
 て、ぼくがきいたら、「すなおだもん」と、おかあさんがいいました。「なんで、する休みあんの」  
 て、ぼくがいいました。ぼくはするやすみをしてはいけないとおもったけど、おかあさんが、「ここにおやすみを、あげないといけないときもあるからね」といいました。

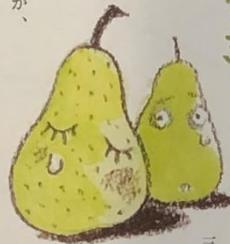
「すきなもの」  
 一年くぼ かつよし  
 ぼくが すきなものは ふゆやすみと はるやすみと なつやすみと するやすみです



しんぶん  
 今日、しんぶん、おもしろいしをよみました。  
 あべみちあき(小学一年)

先生が、五時間目の前に、みんなにそのことを話した。みんな、ぼかあんとしている。まりちゃんも、「あっ、そのこと。うちぜんぜん気にしてないでえ。あそびよったんやもん。」とわらって言った。「ゆうすけくんありがとう。」  
 「言いながら、まりちゃんはなかった。」  
 「これが、本当のうれしなきです。」  
 ぼくもつられてないた。

二年生の七人が、まりちゃんをいじめていた。ぼくは、「まりちゃんかわいそう。」  
 と思いつつ、そうじをした。長田先生に、昼休みに見たことを、ぜんぶ話した。



うれしなき

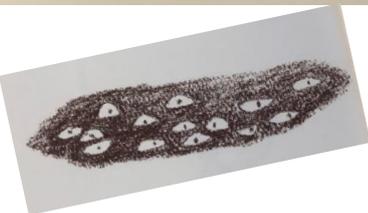
三谷ゆうすけ(小学二年)

給食の時間  
 「あいつに置かれなくてよかった」と、はるかさんを見ている人がいた。僕は  
 (どうしてだろう、なんでだろう?)  
 少しムツときた  
 他の人と同じくもちがわなかった。いずみという理由からなのか自分とちがうと思っっているからなのか



差別の心

福村康平(小学六年)



本校でも、残念なことです。仲間はすれやシカト、言葉の暴力などのいじめがあります。被害を受けたり、逆に加害側となる場合もあります。

著者の村山さんが言うように、一人一人みんながいじめについてしっかりと考え、**ハッピーな教室、笑顔いっぱいの学校**を創っていきたいですね。



一番彼女に近かった。

友達が悪口を言っている人がいた。うわっひどいと思って私はそれを他に友達に言った  
 あれ？ まって？  
 同類じゃん！  
 私も彼女も  
 一番なりたくないと思ったのに  
 自分はちがうと思っただのに

汚染された心

小野祐希子(小学六年)